

鰓角類についての一般向け， 小・中学生向け啓蒙的図説・図鑑類

高橋寿郎

鰓角類（鰓角群）とは、コガネムシ首（主）科（Lamellicornia）のことである。今ブームのクワガタムシをはじめとして、コガネムシ類はもともと人気のあるグループで、研究される方も愛好者も結構多いことと考えられる。これら鰓角類についての純然たる昆虫学術論文とか分類学的論文、さらには総説、図鑑類というのではなく、啓蒙的な一般向けの図説とか趣味的な図説、とくに最近では小・中学生向けの多くの解説書の出版が相次いでいるのが現状である。それらは原色によるものが多く、世界的視野に立って美しいものや珍しいものを紹介・解説、見て楽しむだけでなくいろいろな生態的観点からの知識も与えてくれる。なかには学術的論文あたりで紹介されないある種の図説まで含まれ、著者なども著名な方が多いのでこれらを見捨てることは大変危険である。少なくともいくつかの出版物は参考になるので、目を通す必要があると思われる。ただ大変多くの種類が出版されている現在、すべてに目を通すことは困難であるので、比較的手しやすいもので身近な書店で目にふれることが容易なものに限って、最低見ておいた方がよいと考えられるものをまとめ、ここに記録してみたいと思う。性格上、原則的には日本で出版されたものばかりであるが、内容は日本産のみを取扱ったものでないことをお断りしておきたい。

収録は、一応1985年出版のものまでとして、1970年代から年代順に書名と若干の紹介をしてみたい。

1970. 玉貫光一：原色 世界の甲虫。B4, 255p. (西日本教育図書株式会社)。

よく知られた文献である。日本産も図説されている。ただ現在では古書店でないと入手できないのではないかと思う。

1970. 深谷昌次監修：学研の図鑑 昆虫。B5, 200p.

本書の初版は1970年であるが、1985年には81刷が出版され、なかなかよい図鑑になっている。

1971. 古川晴男監修：昆虫の図鑑．小学館の学習百科図鑑(2)．B5,206p.

本書も1985年には41刷になっており，ヤンバルテナガコガネなども入っていて参考になる図鑑である．

1971. 岸田 功：カブトムシ．科学のアルバム 9．<B5,54p. (あかね書房)．生態が詳しい．

1974. 日高敏隆監修：昆虫のくらし．学研の図鑑．B5,160p.

1982年で29刷になっている．生態中心だがなかなかまとまっている（この年に平凡社からファンタスティックブック昆虫というのが出版されている．日本産は入っていないが，4種のコガネムシ首科のものが出てくる．どれも美しく描かれている）．

1974. 梅谷献二：カブトムシってこんなもの．変形文庫判,276p. (誠文堂新光社)．カブトムシばかりでなく，甲虫全般の解説書であり有益．

1976. 黒沢良彦・沢田玄正監修：小学生ポケット図鑑 1，こん虫．学研の小学生ポケット図鑑．変形文庫判，200p.

5冊シリーズの中の第1冊目．生態・幼期なども適宜入っている．

1976. 安松京三監修：ポケット科学図鑑 2，昆虫．学研のポケット科学図鑑．変形文庫判，224p.

こちらも7冊シリーズの中の2冊目．生態・幼期なども適宜入っている．

上記の2書は1986年にも発売されている．何刷になるのか書かれていない．

1977. 朝比奈正二郎監修：学研の図鑑 世界の昆虫．B5,160p.

世界のきれいな昆虫全般の図説である．日本産コガネムシの図説もある．

1977. 黒沢良彦監修：カブトムシ・クワガタムシ．学研の写真図鑑．B5,56p.

1977. 黒沢良彦監修：昆虫全百科．小学館のコロタン文庫 16．文庫判,383p.

昆虫全般であるが、なかなか有益。

1978. 中山周平・矢島 稔：花と昆虫 環境とくらし．小学館の学習百科図鑑
(19). B5,190p.

1978. 林 長閑：クワガタムシ．科学のアルバム 59. <B5,62p. (あかね書房) .
生態が詳しい．

1979～1982. 阪口浩平：図説 世界の昆虫 1～6. (保育社)

よく知られた一般向けの高水準の図説である．図版の美しさもさることながら解説文が大変素晴らしい．ただ専門的にみた場合、常に短したすきに長しの感なきにしもあらずである．表題のごとく世界の昆虫を扱っているが、日本産の取扱いも勿論ある．特にマルダイコクコガネ (Vol.2), ミクラミヤマクワガタ (Vol.5)の生態に関しての有益な解説もある．

1979. 海野和男：クヌギ林の24時間．子ども科学図書館．B5,35p. (大日本図書) .

1980. 黒沢良彦監修：世界の甲虫．学研の図鑑．B5,144p.

日本産クワガタ、コガネの図説はない．

1980. 渡辺泰明監修：カブトムシ オール全百科．小学館のコロタン文庫(53).
文庫判, 317p.

昆虫全般だが有益．

1980. 安富和男：クワガタムシ・カブトムシ．講談社カラー科学大図鑑．B5,56p.

1980. 矢島 稔監修：生きものの観察と飼育．小学館の学習百科図鑑(30). B5,
158p.

クワガタムシ・カブトムシの飼育法その他が図説されている．

1981. 海野和男監修：カブト・クワガタ大百科．ケイブンシャの大百科シリーズ

84. 文庫判, 316p. (勁文社) .

なかなか充実した内容である。1984年に5版が出ている。

1981. 藤本一幸：ぞう木林の虫。ジュニア図鑑(1) . A5, 91p. (保育社) .

一般的なクワガタムシ, コガネムシの図説がある。

1982. 日高敏隆編著：甲虫のくらし。小学館の学習百科図鑑37. B5, 158p.

日本産コガネムシ類の生態図説あり。

1982. 安富和男：クワガタムシ・カブトムシ大研究。講談社カラー科学大図鑑.

B5, 56p.

1982. 小笠原英明：カブトムシブック. A5, 103p. (日本文芸社) .

カブトムシのみならず, クワガタムシについても生態・形態を述べている。

1982. 近藤浩文：ちんじゅの森。ジュニア図鑑(9) . A5, 91p. (保育社) .

1982. 山口 進・山口就平・青木俊明：カラー版世界の昆虫大百科。ケイブンシャの大百科シリーズ 118. 文庫判, 359p. (勁文社) .

甲虫のみではなく, 蝶その他昆虫の世界産の代表的なものが解説されている。クワガタムシ, カブトムシ, コガネムシも多く, カラーで紹介されていて楽しい本である。

1982. 竹中英雄：昆虫びっくり全百科。小学館のコロタン文庫(78). 文庫判,

329p.

昆虫全般であるが結構面白い。

1983. 岡田俊典：かぶとむしとくわがたむし。ジュニア図鑑(49). A5, 89p. (保育社) .

生態主体であるが, よくまとまっている。外国産のものも紹介されている。

1983. 阪口浩平：世界のカブトムシ．小学館の学習百科図鑑(40)．B5,160p.

非常に高水準の有益な文献．勿論，日本産の図説もある．この年，阪口浩平監修の“むし くらしとかいかた”（ひかりのくに）というのにもみられた．

1983. 長谷川 仁監修：日本の昆虫(2)カブトムシ・クワガタムシ．くもんの図鑑・理科．B5,125p.（くもん出版）．

生態解説が主体．

1983. 栗林 慧：カブトムシ．ジュニア写真動物記－3．B5,52p.（平凡社）．

生態が詳しい．

1983. 岡島秀治・海野和男：日本の甲虫．自然観察シリーズ 15．生態編，A5，190p.（小学館）．

学名が入っていないが，実に美しいカラーでの図説は非常に楽しめる．それに初めて図説されているような種も出てくる．

1983. 勝屋志郎監修，山口 進，山口就平，青木俊明，境野広行：ワイド版 カブトムシ・クワガタムシ．なんでもブレイ百科，ワイド版．B5,146p.（双葉社）．

1983. 岡島秀治監修，山口 進，山口就平，青木俊明：最新図鑑 クワガタムシのすべて．なんでもブレイ百科，ワイド版．B5,146p.（双葉社）．

1984. 岡島秀治監修，山口 進，山口就平，青木俊明：増補改訂 最新図鑑 クワガタムシ．レジャー&ホビーシリーズ(3)．B5,162p.（双葉社）．

1984. 岡島秀治監修，山口 進，山口就平，青木俊明：最新図鑑 カブトムシ．レジャー&ホビーシリーズ(4)．B5,146p.（双葉社）．

以上4点は子供向けということであるが，いずれも写真が豊富でカラーであり生態も詳しい．日本産も含み世界のものが扱われている．見逃せない文献．

1984. 矢島 稔・佐藤有恒：フィールド図鑑昆虫．B6,224p. (東海大学出版会)．

1984. 山口 進：昆虫ものしり大百科．ケイブンシャの大百科(189)．文庫版，
279p.

1984. 黒沢良彦・渡辺泰明：甲虫．野外ハンドブック(12)．B6,238p. (山と溪谷社)．

学名は使用されていないが，美しい原色図と生態写真は貴重である．また初めて図説されたような種もある．高水準である．

1984. 友国雅章監修：学研の観察図鑑2．昆虫2・クモ．B6,192p.

1984. 水沼哲郎：ヤンバルテナガコガネ．A4変形，104p. (朝日出版社)．

ヤンバルテナガコガネに関しての総説のようなもので，特に生態が詳しい．同じ仲間の分類についても解説してあって，高水準の文献である．

1984. 今森光彦：カブトムシ．小学館のこどもカラー文庫(2)．B6,77p.

1984. 山口 進：オオクワガタ．小学館のこどもカラー文庫(3)．B6,77p.

以上2点は，ともに生態が詳しい．なおこのシリーズには(1)ヘルクレス，(4)ゴホンツノカブトが今森光彦著で出版されており，さらに 1985年松香宏隆著(23)コーカサスオオカブトムシが出版されている．

1984. 山口 進：クワガタムシ．ケイブンシャの自然シリーズ カラーブックス
(1)．A5,63p. (勁文社)．

1984. 山口 進：カブトムシ．ケイブンシャの自然シリーズ カラーブックス
(2)．A5,63p. (勁文社)．

ともに簡潔ではあるが，よくまとまっている．

1984. 海野和男：昆虫の王者 カブトムシ．小学館入門シリーズ(43)．A5,172p.

詳しく解説されている。

1985. 山口 進：かぶとむし。誠文堂新光社しゃしんえほんシリーズ。B5,30p.
写真集である。

1985. 海野和男：写真昆虫記12か月。上・下巻。小学館入門百科シリーズ(107・108)。A5,154p.+154p.

1985. 春田俊郎：クワガタムシブック。A5,103p. (日本文芸社)。
かなり詳しく生態・形態が解説してある。

1985. 日高敏隆編：カブトムシ。集英社カラーサイエンス。B5,62p.

1985. 奥本大三郎：珍虫と奇虫。小学館の学習百科図鑑(46)。B5,158p.
ヤンバルテナゴコガネ、ヘルクレスオオカブトの生態とか、アフリカの糞虫の生態も紹介されている。

1985. 東 清二監修：カブトムシ。沖縄の自然百科(6)。B5,32p. (沖縄出版)。

1985. 岡島秀治：最新図鑑 クワガタムシ。'85増補改訂版。B5,174p. (双葉社)。
1984年版に8図版を追加，種として58種（一部前年度と同じ種も入っている）を追加。かなり珍しい種が含まれている。

1985. 藤田 宏：日本のクワガタムシ。パーフェクトシリーズ(20)。B5,56p. (講談社)。
日本産クワガタムシ35種29亜種 673個体（地域変異，個体変異を入れて）をフルカラーで図説したもので，色も美しく価格も安い。実に便利な書であり，文献としても高水準である。

1985. 岡島秀治：世界のカブトムシ1。パーフェクトシリーズ(22)。B5,56p. (講談社)。

旧大陸のカブトムシ53種 351個体（地域変異，個体変異を入れて）がフルカラーで図説されている．日本産カブトムシも入っている．なお，このシリーズ（21）には“世界のクワガタムシ”（岡島秀治著）もあり，166種651個体の図説も出版されているが，こちらには日本産が含まれていない．さらにシリーズ（24）として，三枝博幸著“昆虫の変態”が出版されており，コクワガタ，ヤンバルテナガコガネの生態図説がある．

1985．林 長閑ほか：決定版 生物大図鑑．昆虫Ⅱ，甲虫．A4変形，399p．（世界文化社）

上記表題の書Ⅰ・Ⅱが出版され，Ⅰ巻はチョウ，バッタ，トンボその他で，Ⅱ巻が甲虫となっている．一般向けのものであるが大変美しい標本写真や生態写真も多くあって，大変きれいな図鑑であり利用価値のある文献である．クワガタムシ，コガネムシ類はp.64～97にわたって解説されている．

1985．おくやまひさし：森の王様 カブトムシ．シリーズ自然博物誌．文庫判，158p．（光文社）．

カブトムシ・クワガタムシの生態のみならず，他の若干の甲虫の生態についても図説．

1985．今森光彦：フンを食べる虫．ジュニア写真動物記(28)．B5,44p．（平凡社）．
糞虫の生態を図説している．なかなか有益．

1985．中山周平：雑木林ウォッチング．自然観察シリーズ(25)．A5,158p．（小学館）．

1985．佐藤有恒指導・七尾 純：自然たんけん（4）カブトムシ．B5,54p．（国土社）．

さらに文献として取り上げるのにはちゅうちょしないでもないが，面白く啓蒙的で無視できない橋本説朗によるクワガタムシの解説シリーズが TSU・I・S0 に出ている．即ち，「日本のクワガタ」No.396/397,1983．「オオクワガタ属」

No.412,1984.「ヒラタクワガタ属」No.407/408,1984.「フタマタクワガタ属」No.420,1984.「ミヤマクワガタ属」No.441,1985. また、カミキリニュース Vol.18, No. 7/8, 1985 に「日本産ハナムグリー一覧(その1)」もみられる。

図鑑とか図説というのではないが、次のような写真集のなかにもクワガタムシ・コガネムシについての生態写真が含まれているのは見逃せない。

浜野栄次(白水隆監修)(1978)「熱帯アジアの昆虫」(講談社)。栗林 慧(高良鉄夫・東 清二監修)(1979)「沖縄の昆虫」(学習研究社)。

なお、単行本でなく科学雑誌の類のなかにも鯉角群愛好者には見逃せない有益な解説文をみることができる。それらのいくつかを紹介してみたい。

1974. 朝日＝ラールス, 週刊世界動物百科. No.175, コガネムシ科. No.176, クワガタムシ科。

美しい世界産のものが原色で示され解説されている。

1980. 栗林 慧・海野和男: 甲虫名鑑. アニマ(89):6-12.

1980. アニマ編集部: 甲虫のつの突き闘争. アニマ(89):29-36.

1981. 海野和男: 天をさす3本ツノ・アトラスカブトを追って. ワイルドライフ(34):54-59.

1984. 山口 進: 闇に生まれる・今はじまるオオクワガタの長い一生. ワイルドライフ(73):39-42.

以上1985年に発行された分まで一通り眺めてみたつもりである。1986年にも2, 3面白いものが目についた(太田一男: かぶとむし。海野和男: くわがたむし。ともに小学館のこども文庫2, 3, 科学シリーズ, 愛蔵版。岡田 要監修: 生きものの飼い方全書。東陽出版株式会社。林 長閑監修: カブトムシとクワガタムシ。集英社。1980年初版1986年13刷)。

初めに記したようにまだまだ目を通したものは他にもあり、見落としているものも多いことと思っている。こうしてみると結構多くあるのに驚く。なかには文献として欠くことのできないものも多く入っている。子供向けのものは大量生産のせいか価格も比較的安く、印刷も最近はやいので値のわりには美しい仕上がりである。このように多種多様、いたれりつくせりの感なきにしもあらずで、現代の子供たちは幸せだなあと羨ましくなる。戦前派の筆者など、ひたすら日本は平和なんだなあと感心するだけである。